

私立大学研究ブランディング事業

30年度の進捗状況

学校法人番号	181001	学校法人名	金井学園		
大学名	福井工業大学				
事業名	「宇宙」事業推進のために地域と協働する“ふくいPHOENIXプロジェクト”				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	2080人
参画組織	地域連携研究推進センター・工学部・環境情報学部・スポーツ健康科学部				
事業概要	<p>◆本学は、北陸最大の直径10mパラボアンテナ等を備え、「宇宙」利用研究をブランドとしてきている。また、地域の多くの自治体と連携協定を締結するなどして、地域と協働した多くの活動を行っている。一方、福井県内では平成32年度の県民衛星打ち上げを目標に衛星開発計画が推進されるとともに、福井駅前に「宇宙」をテーマとする大型施設が建設され、親子連れなどで賑わっている。このような背景から、本学は地域と連携しながら、本事業によって「宇宙」に関するブランド力を向上することにより、地域での「宇宙」を基盤とする産業育成、観光・文化の振興に繋げる。</p>				
①事業目的	<p>本学がこれまでに培ってきた「衛星情報活用研究」と本学の特徴である「地域貢献」活動を、本事業を通して更に発展させる。具体的には、(A)衛星利用研究基盤を活用・発展させ、宇宙関連研究の独自性を明確に打ち出す。(B)地域の観光・文化の目玉として宇宙を取り入れる。(C)新しい地域産業として宇宙関連産業の育成を図り、縦横断的に地域活性化の方策を導く。これら(A)(B)(C)の3つの研究を軸とした本学のブランドを確立する。</p>				
②30年度の実施目標及び実施計画	<p>上記(A)(B)(C)の各研究軸と、ブランディングのための広報活動の目標及び計画を以下に示す。</p> <p>(A)宇宙研究軸 (目標:①超小型衛星1号機の打上げ・運用、②他の超小型衛星の運用協力。 計画:①超小型衛星1号機の国際宇宙ステーションからの放出および運用、県産部材の宇宙軌道上実証、地域環境計測の実施、②超小型衛星RISERAT・DIWATA-1・ほどよしの運用協力(以降、毎年度実施)</p> <p>(B)観光文化研究軸 (目標:①宇宙関連地域資源の価値の再認識、②宇宙関連施設・他の地域資源との連携イベント、③観光・都市戦略における課題解決。 計画:「宇宙と福井をつなぐ地域創生研究会」における①夜空の暗さ計測の実施、および②宇宙関連施設における展示コンテンツの制作、小原ECOプロジェクトにおける再生古民家での「宇宙カフェ」の本格的実施等に基づく③観光・都市戦略課題の解決法の実行)</p> <p>(C)地域振興研究軸 (目標:①衛星データによる地域環境情報の配信方法の改善、②共同研究の継続実施。 計画:①衛星データによる地域環境情報の配信方法の改善、②自治体/大学/高専/企業向けセミナーの実施による地域連携・共同研究の継続実施、福井県民衛星プロジェクトとの情報交換)</p> <p>ブランディングの広報など (目標:全国的な認知度向上。 計画:あわらキャンパスにおける大学宇宙工学コンソーシアムのワークショップ開催(12月)、本学の海外連携協定に基づく海外連携大学とのジョイントシンポジウム・留学生受け入れの実施)</p>				

<p>③30年度の事業成果</p>	<p>上記(A)(B)(C)の各研究軸と、ブランディングのための広報活動に関する事業成果を以下に示す。</p> <p>(A)宇宙研究軸 (①当初計画より1年遅れてはいるが、超小型人工衛星1号機の打ち上げについてJAXAと正式契約を締結し、2019年度秋頃の国際宇宙ステーションからの放出に向けて現在、JAXAと協議継続である。また、搭載プレート3個を地元の企業である、鯖江精機株式会社に製作依頼をした。県産部材実証の第一歩と考えている。②現在、10mパラボラアンテナの修繕中であり運用協力は実現していないが、2019年1月17日に打ち上げられた東北大学のRISERATについて修繕終了後、運用協力の予定であり東北大学とは継続的に協議を行っている。)</p> <p>(B)観光文化研究軸 (①「宇宙と福井をつなぐ地域創生研究会」における夜空の暗さ計測の実施について、対象地域における計測実績が蓄積される中、宇宙関連地域資源の価値を再認識する上で、宇宙研究軸並びに地域振興研究軸との相互補完的な関係構築に努めた。②小原ECOプロジェクト、えちぜん鉄道株式会社、JR西日本福井支店、勝山市観光まちづくり株式会社との協働によって、平成30年9月に一般市民を対象とした星空観光ツアーを実施した。③小原集落での星空観光ツアーの実施により、星空観光の成立には「場づくり」が必要不可欠であることが分かった。それらを踏まえて、大野市並びに誘客施設ミルク工房との連携にて一般市民を対象とした「星空ハンモック」を平成30年10月に実施した。飲食による滞留時間の延長はもとより、急な天候の変化や寒冷対策が必要になる時には収容力のあるミルク工房を退避場所とすることで課題が克服できる点は、ミルク工房を拠点とした「場づくり」が、六呂師高原の星空観光を成立させる上で大切な取組みになることを示している。)</p> <p>(C)地域振興研究軸 (①あわらキャンパスの受信局で得られるデータ並びに、既存の衛星データ(Landsat, Terra/Aster, Sentinel等)、高解像度衛星画像データを用いて地球環境に関する研究を行い、カラー画像、夜間光画像、植物の活性度を表すNDVI画像および日本海の表面海水温画像の4画像を、Web上に公開表示するシステムを構築した。ユーザーは簡単に衛星によるリモートセンシングを体験できるようになった。②福井県農業試験場との連携の下、リモートセンシングによる水稻の生育計測を今年度も実施した。2号機の製作における連携可能性について、福井県工業技術センターおよびセーレン、鯖江精機を窓口として相談を開始した。)</p> <p>ブランディングの取組 (地域人材の育成に関する取組として、平成30年度は12回の講演会を実施した。中でも、今年度は本プロジェクト始動から3年を経過することから、平成30年11月に中間成果報告会を開催した。なお、平成30年5月にはマレーシア国「テナガナショナル大学」の研究者が来学し、意見交換を行った。その他、12個のイベント、フェア等にて本プロジェクトの活動紹介を実施した。また、令和元年6月本県にて開催される「第32回ISTS福井大会」での出展準備に取り掛けている。)</p>
<p>④30年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価) 平成31年3月14日に開催した自己評価委員会(評価者:4名)による評価結果を以下に示す。</p> <p><事業A:宇宙研究軸> ・本事業が5年計画が4年に短縮された状況で1年遅れは厳しい状況と思う。パラボラアンテナの修理の見通しについて、何が問題でありどのように解決するのがもう少し見えるとよい。 ・打ち上げ後のデータ取得、解析等に綿密に関係機関と調整を行い有効なデータ取得をされることを望む。</p> <p><事業B:観光文化研究軸> ・平成29年度に実施した小原集落での星空観光プレツアーを基に、今年度は旅行会社、鉄道会社、地元企業等の協力のもと実施された「勝山小原貸切スタートツアー」に多くの参加者を募れたことは評価できる。これを機に、県内一体となった新たなブランディングの創出を期待したい。 ・地域と連携した多くの取り組み、イベントが行われたことは評価できる。今後は、これらの取り組みが一過性のものとせず定着させ新たな観光の創出に期待している。</p> <p><事業C:地域振興研究軸> ・衛星からのデータ利用に関し、地域活用へのシステムが確立されていないように感じる。外部事業者との連携が必要ではないか。 ・計画通り進んでいることは評価できる。但し、この成果をどのように地域振興に繋がるのか、あるいは繋げていくのが明確でなく感じる。</p> <p><ブランディング> ・衛星打ち上げ時の大々的な広報をお願いしたい。 ・計画通り行われていると判断できる。</p> <p>(外部評価) 平成31年2月21日に本学にて外部評価委員会を開催し総勢5名の評価者による結果を以下に示す。(総合所見) ・2019年度がブランディングの鍵になると思われる。関係各位のご努力に敬意を表すると共に、これから期待している。 ・地域貢献、ブランディング等、概ね適切な取り組みがなされていると思う。 ・各研究軸とも着実に進められている印象であった。 ・宇宙研究軸においては、令和元年10月に超小型人工衛星に実現に向けて着実な進捗が図られている。今後の展開が興味深い。 ・観光文化研究軸、地域振興研究軸についても今後、発展・拡大し新しい研究素材として期待できる。 ・ブランディングの取組みに関して、事業の進展に応じて適切に進められていると思う。</p>
<p>⑤30年度の補助金の使用状況</p>	<p>平成30年度は予算額¥61,180,000円に対して、¥59,580,645円を執行した。 なお、事務局である地域連携研究推進センター・社会連携推進課において、補助金の支出を厳正に管理している。</p>